

国立国語研究所学術情報リポジトリ

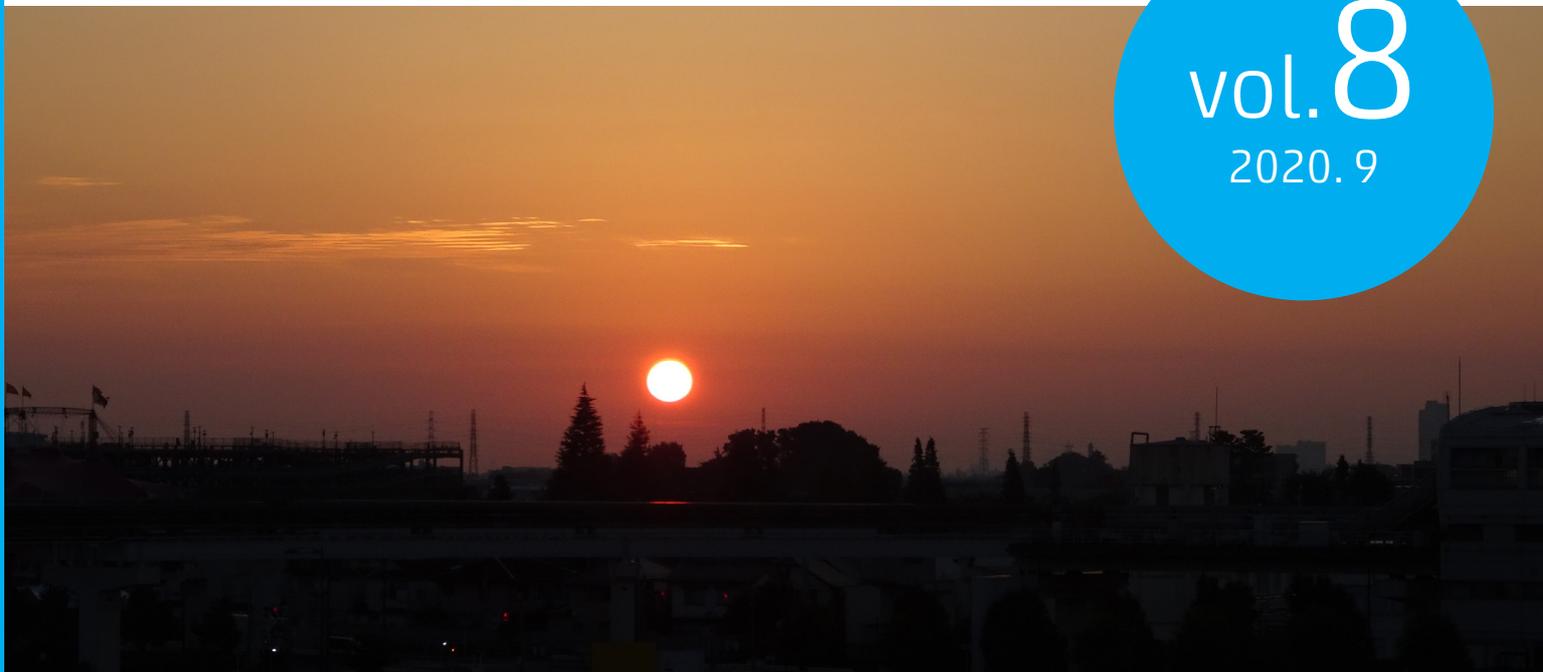
NINJAL Research Digest vol.8 (2020.9)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-10-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所研究情報誌編集委員会 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003054

ことばの波止場

NINJAL Research Digest

vol.8
2020.9



特集

統語コーパスと学習者のコミュニケーション

コーパスを使って日本語の文法的な振る舞いを知る

学習者コーパスから見えてくる日本語学習者のコミュニケーションの姿

研究者紹介
著書紹介



PROJECT

- トップ
- プロジェクトの概要
- 研究成果
- 研究発表会
- 講習会
- リンク
- お知らせ
- お問い合わせ

統語コーパス

コーパスを使って 日本語の文法的な振る舞いを知る

「統語コーパス」プロジェクト

世界には言語によって、文法システムの整備が進められ、こうしたコーパスを利用した研究が言語学・言語処理の分野で目覚ましい成果を上げています。日本語については、2016年より、国立国語研究所の共同研究プロジェクト『統語・意味解析コーパスの開発と言語研究』がスタートし、現在、NPCMJ (NINJAL Parsed Corpus of Modern Japanese) の構築が進められてきています。現在、約4万文(4万ツラ)を公開しています。あわせて、多様な検索ができる以下のNPCMJ向けツールを提供しています。ぜひお試しください。

出典	件数	単語数
青空文庫 (aozora)	9,561	175,791
聖書 (bible)	1,664	26,119
書籍 (book)	553	10,992
辞書 (dict)	5,362	40,309
国会会議録 (diet)	1,698	32,446
フィクション (fiction)	923	10,049
気象庁 (jma)	337	8,339

プラシャント・パルデシ
Prashant PARDESHI

長崎郁
NAGASAKI Iku

- News
- コーパスの更新を行いました。
2020年1月20日
 - NINJAL-Okuboコーパスを公開しました。
2019年4月8日

言葉の規則

私たち人間が日常物事を考え、互いにコミュニケーションを行うにあたって、言葉は欠くことのできない手段です。人間は幼児期から周囲で話される言葉を自然に覚え、それがその人の母語となります。これに対して、日本人が英語、スペイン語などの外国語を習い、また外国人が日本語を学ぶときには、「文法」と呼ばれる言葉の規則を語彙とともに学習する必要があります。

言葉を母語として自然に習得し使用しているときには文法は意識されず、見えないところで働いているのですが、外国語として学ぶ際には表面に出て来ることとなります。

言葉を文字で書きあらわそうとすると、文字が一直線に並ぶだけです。ところが実際には、言語は直線ではなく階層的な構造を作っているというのが言語学の常識です。たとえば、「私が読む」は文字では4文字が並んでいます。しかし、「私」は「が」と、「読む」は「む」とくっついて、「私が」と「読む」という2つのまとまりを作っています。さらにその後ろに「本」をつけて「私が読む本」とすると、

「私が読む」という全体に「本」がくっついていることが分かります。このような仕組みを「統語構造」といいます。構造の理解は人間の頭の中では無意識に行われるのですが、コンピューターにそれをさせるのは至難の業です。現代ではコンピューターによる言語情報処理が実用化されようとしています。そのような機械に言葉を「教える」または「解析」してもらうためにも文法、つまり、文の統語構造が必要です。

文の統語構造

私たちは学校の国語や英語の時間に、主語や述語、また関係代名詞を伴った動詞文による名詞の修飾などを習いますが、これらの文法知識に共通して、それらを支えているのが、文（センテンス）を構成している語やその集まりである句が互いに修飾したり修飾されたりする関係を持っている、という事実です。

このことは、「文は構造を持つ」と言い換えることができます。文の構造に関する規則が文法に他なりません。このように構造を持つ文を話してコミュニケーションを行うことは、

質的にも量的にも限界のある脳を使って周囲のありとあらゆる事柄を表現するために人間が進化の過程で身に付けた能力です。たとえば、「子供が本を読む」という文は、おおよそ、次のように波括のまとまりごとに構造を成しています。

{[子供] が} {[[本] を] 読む}

このうち、一番外側の波括弧で示した部分、「子供が」と「本を読む」は、それぞれ主語（名詞句）と述語（動詞句）に相当します。このような構造についての情報が注釈付けされた言語データを集積することで、実際に使われている語や文をデータとして利用して言葉の文法を研究することが可能となります。また、そのような規則をコンピューターに与えて、人間の言語を解析することもできるようになります。

元々、人工知能の研究によって生まれた概念に上述の「名詞句」(図1ではNP)、「後置詞句」(図1ではPP)のような「句構造」というものがあり、近年になってからは、これを文(図1ではIP-MAT)の構造の表示に利用して様々な研究が行われていま

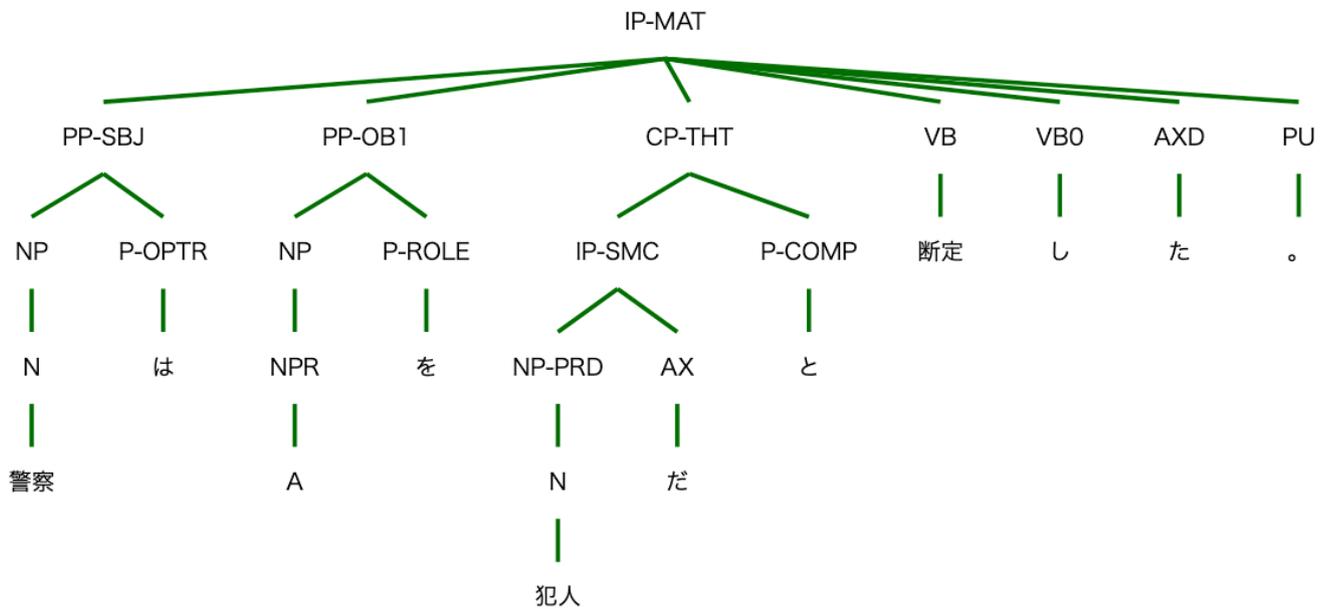


図1 句構造を利用した文の構造の表示

す。句構造を使えば文の意味が正しく扱われることが知られています。

「統語コーパス」プロジェクト

「統語コーパス」プロジェクトが取り組んでいるのは、上で示したような、句構造、述語に対する主語・目的語・付加詞といった関係、さらには、名詞修飾構造（「友達から聞いた噂」「大統領が辞任した噂」）、受動文（「私は殴られた」「私は雨に降られた」）、使役文（「子どもに本を読ませた」）、条件節（「安ければ、買おう」）、引用節（「彼は来ると言った」）などの、文の統語・意味構造に関する様々な情報の注釈を備え、それを使って用例を検索することのできる現代日本語コーパスの開発と公開です。

これまで、日本国内では様々なコーパスが作られてきましたが、その多くは上に挙げたような情報を持っていません。統語情報を注釈付けたコーパスはツリーバンク (treebank) と呼ばれます。海外では1960年代からすでにツリーバンクの構築が進められ、言語研究に利用されていますが、日本語についてはそのようなコーパスは存在しませんでした。したがって、「統語コーパス」

プロジェクトは国内初の本格的なツリーバンク構築の試みとすることができます。我々は、日本語ツリーバンクは、日本語研究への利用だけでなく、学校における日本語（国語）の学習や、外国語としての日本語の学習にも役に立てることができるはずであり、さらに将来的には、自動翻訳や人工知能の開発にも貢献できると考えています。

NPCMJコーパスと検索ツール

「統語コーパス」プロジェクトにおけるコーパス構築の成果は、「統語・意味

解析情報付き現代日本語コーパス」(NINJAL Parsed Corpus of Modern Japanese、以下、NPCMJ)として順次、一般公開しています。表1はNPCMJのデータを出典ごとに分類したものです。この表から分かるように、NPCMJには2020年4月現在、約4万文（ツリー）、語数にして約56万語のデータが収録されています。データはすべて、漢字仮名混じりとローマ字の両方で表記されており、全データ、あるいは次ページで紹介する検索ツールを使った検索結果を自分のコンピューターにダウンロードすることができます。

表1 NPCMJコーパスデータの構成(2020年4月)

出典	ツリー数	語数
青空文庫 (aozora)	9,561	175,791
聖書 (bible)	1,664	26,119
書籍 (book)	553	10,992
辞書 (dict)	5,362	40,309
国会会議録 (diet)	1,698	32,446
フィクション (fiction)	923	10,049
法律文 (law)	337	6,954
その他 (misc)	2,389	25,675
ニュース (news)	4,777	73,565
ノンフィクション (nonfiction)	223	3,966
会話 (spoken)	2,382	12,578
テッドトーク (ted)	1,453	21,366
教科書 (textbook)	6,953	63,974
ウィキペディア (wikipedia)	2,556	56,314
合計	40,831	560,098

コーパスを利用するには検索ツールが必要です。「統語コーパス」プロジェクトでは、NPCMJのための専用の検索ツールの開発も行っています。ひとつは、初中級者向けのNPCMJ Explorer、もうひとつは、中上級者向けのNPCMJ Searchです。NPCMJ Explorerは、単純な文字列検索と、特定の文法項目に関する用例の検索という2種類の検索手段を備えたツールです。文法項目として、益岡隆志・田窪行則（1992）『基礎日本語文法』（くろしお出版）で解説されている136の項目から73項目を取り上げ、各項目のラベルをクリックするだけで、利用者が複雑な検索式を作成しなくても、用例が表示される仕組みになっています。ジャンル（表1における「出典」）ごとの頻度を調べるためのジャンル指定機能もあります。NPCMJ Searchでは、品詞や句・節に与えられたラベルや、ラベルとラベルの関係を検索式によって指定しながら用例の検索を行います。どちらのツールでも、検索結果を一覧表示させたり、木構造で

表示させたりすることができます。以上で紹介したNPCMJのデータおよび検索ツールは、「統語コーパス」プロジェクトのウェブサイト（<http://npcmj.ninjal.ac.jp/>）からアクセスすることができますので、ぜひお試しください。

NPCMJを使って日本語の文法的な振る舞いを知る

先に述べたとおり、NPCMJは文の統語・意味構造に関する様々な情報を持っています。そのため、特定の構文を検索し、それが実際にどのように使われているかを観察することが比較的簡単にできます。ここでは、その例として受動文、および文中の主語と目的語の語順をとりあげ、その使用実態を頻度という観点から見てみましょう。

受動文

日本語の受動文は直接受動と間接受動（「迷惑の受け身」「被害の受け身」とも）の2つに大別されます。以

下の2つの例は、どちらも述語に助動詞の「れ（る）・られ（る）」が含まれますが、1つ目が直接受動の、2つ目が間接受動の例です。

私はさんざんに殴られた。
太郎は雨に降られた。

直接受動文の主語は、対応する能動文「〇〇が私を殴った」の目的語であり、能動文の主語を受動文の中に表現する場合は、「に」や「によって」などの助詞をつけて表します。直接受動文は世界の多くの言語に見られるものです。一方、間接受動文には対応する能動文がありません。「太郎は雨に降られた」の「太郎」は「雨が降った」という文の中に表現することのできない要素です。このような間接受動を持つ言語は世界にはそれほど多くないと言われています。また、日本語には「太郎は先生に作文をほめられた」のように、能動文「先生は太郎の作文をほめた」の目的語の中の修飾語（＝所有者）が、受動文の主語になるというものもあり

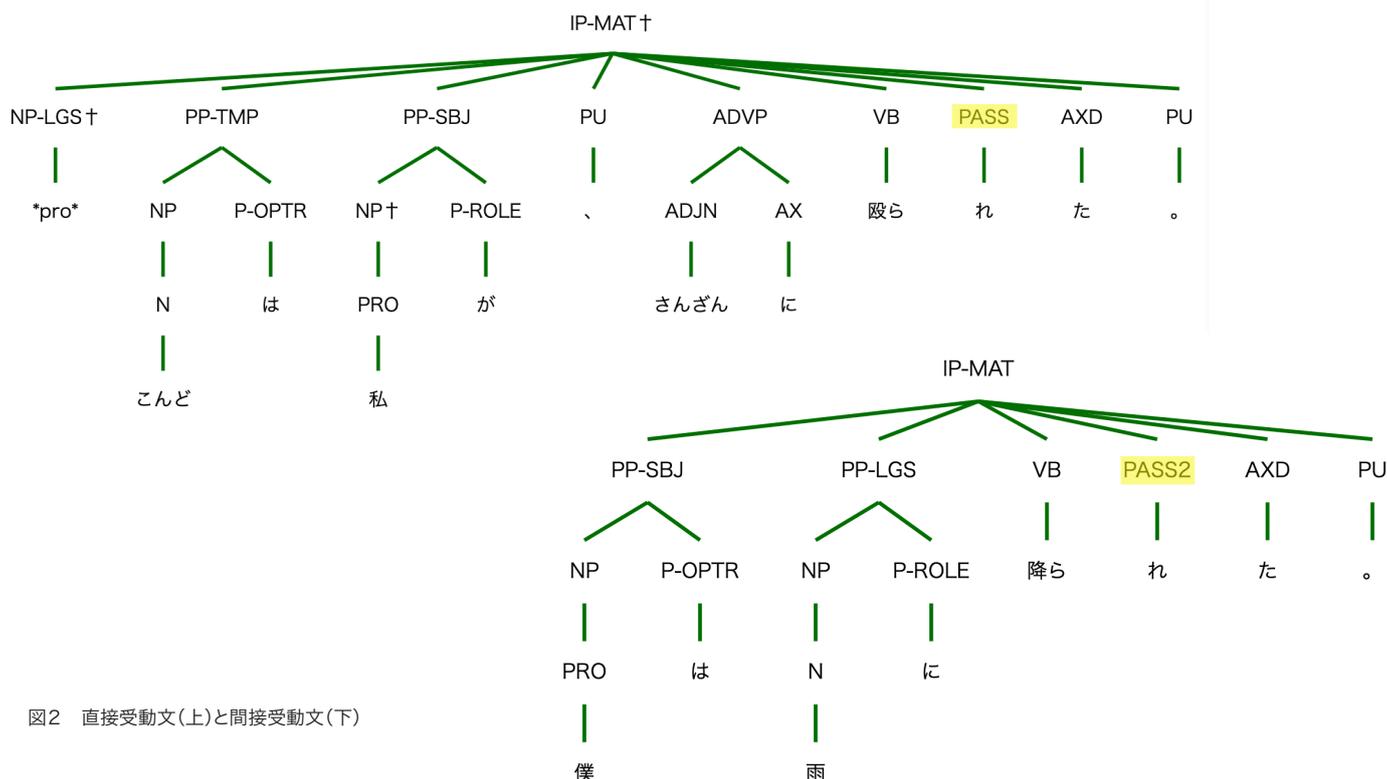


図2 直接受動文(上)と間接受動文(下)

ます。これは所有者受動と呼ばれ、直接受動と間接受動の中間的なものとする立場と、間接受動の一種と見なす立場がありますが、NPCMJでは後者の立場をとっています。

以上のように文法的な観点から直接受動と間接受動は異なったものだと考えられるのですが、では、実際の言語使用の中で、これら2つはどのように異なっているのでしょうか。このような違いは、もちろん、私たちが直感的に説明できるようなものではありません。しかし、コーパスを利用し、頻度を比べることによってその違いに迫ることが可能です。

NPCMJでは、直接受動を表す助動詞には PASS というラベルが、間接受動を表す助動詞には PASS2 というラベルが与えられていますので、このラベルを手がかりに両者を別々に検索することが可能です(図2を参照)。このようにして約4万文のデータを検索すると、直接受動文は3448例、間接受動文は170例という結果が得られます。実際に書かれたり話されたりした言葉の中では、両者の使われる頻度が全く違っている、言い換えると、頻度の点で非対称性があるということになります。

このような使用実態に関する情報は、外国人のための日本語教育に役立てることもできます。例えば、より頻繁に使われる直接受動を先に教え、その後、あまり使われない(しかし、日本語の表現としては重要な)間接受動を教えるという風に、文法項目の導入順を使用頻度という客観的な指標に基づいて決めることができるようになるからです。また、コーパスで得られた用例は、教科書の例文とは異なり、生きた言葉を反映したものですから、学習者は当該の文法項目をより自然な用例とともに覚えることができます。

主語と目的語の語順

日本語は語順の比較的自由的な言語です。例えば、

太郎が花子をほめた。

花子を太郎がほめた。

のように、名詞句が「～が～を」の順番に並んでも、「～を～が」の順番に並んでも日本語の文として成立します。ただし、母語話者は直感的に「～が～を」の方が普通で、「～を～が」の方が特別な順番だと考えます。NPCMJで2つの語順の割合を調べると、「～が～を」は98%、「～を～が」は2%という割合で、しかも「～を～が」の方は「を」の前の名詞句に修飾語があるなど、「が」の前の名詞句よりも長いときに使われる傾向が見られると報告されています(Kishimoto and Pardeshi 2019)。つまり、こちらが普通で、こちらが特別という直感は、実際の言語使用における頻度の高低と結びついていると考えられます。

では、

太郎が花子にプレゼントを送った。

太郎がプレゼントを花子に送った。

のような「～が～に～を」の順番と「～が～を～に」の順番はどうか?この2つの順番についてどちらが普通でどちらが特別ということを直感的に判断するのは難しいような気がします。NPCMJで割合を調べると、「～が～に～を」が62%で、「～が～を～に」が38%と先に見たほどの大きな差は見られないものの、「～が～に～を」の方が使用頻度が高く、また、「～が～を～に」の方には、「を」の前の名詞句が旧情報という傾向があると報告されています(Kishimoto and Pardeshi 2019)。

今後の展望

現在、「統語コーパス」プロジェクトでは、NPCMJのデータ量を6万文(ツリー)に増やすことを目指して活動しています。また、NPCMJを使ったオンラインの練習問題を解きながら統語論を学ぶという、言語学を専門とする学生向けの教材が完成間近です。

それに加えて、大人による標準語のデータとは異なる日本語のバリエーション、具体的には、6歳までの子供の言葉と津軽方言についてもツリーバンクの構築を進めています。どちらも世界的に類例のほとんどない試みですが、子供の言葉のツリーバンクからは、子供がどのような順番で様々な表現・構文を習得していくのか、その過程(言語習得過程)が鮮明に見えてくるはずで、また、方言のツリーバンクは、方言における文法体系をよりきめ細かく記述するための基盤となることが期待されます。

【引用文献】

Hideki Kishimoto, Prashant Pardeshi (2019) "Parsed Corpus as a Source for Testing Generalizations in Japanese Syntax." In Prashant Pardeshi, Alastair Butler, Stephen Horn, Kei Yoshimoto, Iku Nagasaki (eds). *Exploiting Parsed Corpora: Applications in Research, Pedagogy, and Processing*. LiLT (Linguistic Issues in Language Technology), Vol. 18, Issue 2, pp. 1-24 (special issue published online).

(国立国語研究所・教授／
プラシャント・パルデシ
名古屋大学・特任講師／長崎郁)

学習者コーパスから見えてくる 日本語学習者のコミュニケーションの姿



国語研らしい日本語教育の研究

国立国語研究所は、日本語の研究だけでなく、日本語学習者（いわゆる「外国人」）に日本語を教える日本語教育の研究もしています。国内外の大学、国際交流基金、文化庁等でも日本語教育の研究は盛んですが、国語研の日本語教育の研究の特徴は、「日本語学習者が使う日本語の研究」です。複雑な構造と体系を持つ日本語を、日本語学習者が何をどのような順序で学んでいるかを調査・分析し、それを日本語教育の現場に役立てることを目指します。

学習者が日本語を学ぶ場合、共通して難しく感じられる困難点があります。しかし、そうした困難点に、日本語の興味深い特徴が隠れています。事実、戦後の日本語研究は、学習者の誤用によって発展してきました。学習者は日本語を論理的に考えて間違えるので、その間違いを検討することで日本語らしい特徴が見えてきます。たとえば、助詞「は」と「が」を日本語母語話者（いわゆる「日本人」）ならば無意識に使い分けていますが、日本語学習者に教えるときはその違いを論理的に説明する必要があります。それによって日本語の重要な文法形式の考察が深まり、日

本語研究は進歩してきました。

一方、学習者が日本語を学ぶ場合、人によって困難点が異なることもあります。日本語の学び方は一様ではなく、学習者の母語、日本語のレベル、学習の目的、置かれた環境など、学習者の個性によって、かなり異なります。そうした学習者の学びの多様性を知ること、日本語教育の重要な課題となっています。

学習者の日本語使用・理解の姿

学習者の学びの共通性と多様性を知るには、学習者のコミュニケーションを記録した学習者コーパスを構築し、分析するのが確実です。そのため、国語研の日本語教育研究領域では「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」プロジェクトを立ち上げ、学習者の日本語使用、学習者の日本語理解の二つのタイプの学習者コーパスを構築しています。

学習者の日本語使用のコーパスは、学習者の「話す」「書く」という産出結果を記録したもので、I-JASとBTSJの二つがあります。いずれも、千人に及ぶ調査協力者の協力を得た、従来にない規模の学習者コーパスです。また、学習者の日本語の特徴を知るために、日本語母語話者のコーパスもついています。

この二つのコーパスについては、次ページ以降の紹介記事をご参照ください。

一方、学習者の日本語理解のコーパスは、学習者の「読む」「聞く」という解釈結果を記録したもので、「日本語非母語話者の読解／聴解コーパス」「日本語学習者の文章理解過程データベース」があります。「日本語非母語話者の読解コーパス」(<https://www2.ninjal.ac.jp/jsl-rikai/dokkai/>)「日本語非母語話者の聴解コーパス」(<https://www2.ninjal.ac.jp/jsl-rikai/choukai/>)は仮説検索型のデータベースで、学習者の「読む」「聞く」過程を、先入観を交えずに記録したものです。一方、「日本語学習者の文章理解過程データベース」(<https://l2-communication.ninjal.ac.jp/>文章理解研究/)は仮説検証型のデータベースで、学習者の語義推測や文脈理解の過程を、ポイントを絞って実験的に記録したものです。仮説検索型と仮説検証型の二つを合わせることで、効果的に学習者の理解の過程を分析することが可能になっています。

学習者のためのリソースの開発

私たちのプロジェクトは、学習者のコミュニケーションの分析に留まりません。こうした分析をどう教育に活用するかを

考えています。2019年度だけで、分析結果をまとめた8冊もの論文集を刊行し、教育への活用の可能性を示しています。

また、学習リソースとして、上述の理解コーパスの研究成果を生かした

ウェブ版読解・聴解教材「日本語を読みたい!」「日本語を聞きたい!」を開発中です。さらに、視覚的・聴覚的要素をふんだんに盛りこみ、日本語の基本動詞のイメージが感覚的に理解でき

る「基本動詞ハンドブック」もありません。9ページに紹介があるので、ぜひご覧ください。

(日本語教育研究領域代表・教授/

石黒圭)

世界で学ぶ日本語学習者のコーパス-I-JAS-

I-JASとは、「多言語母語の日本語学習者横断コーパス International Corpus of Japanese as a Second Language」の略称です。このコーパスには、学習者1,000名、日本語母語話者50名、合計1,050名の対面調査で収集した発話と作文、一部の参加者から収集した任意の作文、さらに、日本語能力テスト結果など、全参加者の詳細な背景情報のデータが含まれています(迫田ほか2020)。

I-JASは、対面調査だけでも807.6万語の産出データを収集しており、最も大きな特徴は12の異なる言語を母語とする海外の日本語学習者850名と日本国内の学習者150名の世界最大規模の日本語学習者コーパスである点です。類型論に基づいた12言語(中・韓・英・仏・独・露・洪・尼・西・土・越・泰)の学習者群を比較することで、個別言語(母語)の影響や言語類型別の特徴を探ることができます。

また、7種類のタスク(ストーリーテリング、対話、ロールプレイ、絵描写、ストーリーライティング、エッセイ、eメール)のタスク間の結果比較や作文と発話の比較により、課題の違いによる学習者言語のバリエーションを観察することもできます。

さらに、日本国内の学習者150名は、学校に通う教室環境学習者と就労目的や国際結婚で学校に通わない自然環境学習者のグループに分けられており、教室指導や環境の習得への影響についても比較が可能です。

加えて、学習者は全員2種類の日本語習熟度テストを受けているため、習熟

度別の比較も可能です。

このほか、個々の学習者の背景調査のデータを併用することで、日本語母語話者との交流やアルバイト、学習スタイルなど、幅広い視点からデータを分析することができます。

I-JASは、日本語の第二言語習得研究や言語研究のみならず、コーパス研究の分野においても大きな意義を持っています。これまでに蓄積された英語や中国語の学習者コーパスの研究領域との共同研究、現在構築中の中国語母語話者の縦断コーパス(B-JAS)との合同・比較研究、さらには方言コーパスや日本語母語話者の現代語コーパスとの比較分析によって、研究領域のさらなる拡大や深化が期待できます。

I-JASのデータ収集調査では対面調査の終了後、1人ひとりにその学習者に応じた日本語学習のアドバイスをカードに書いて渡しています。学習者にとっ

ても生まれて初めて日本語母語話者と長時間話して良い経験や刺激になったという感想もあり、調査する側と調査される側の双方向で意義深い交流が生まれました。

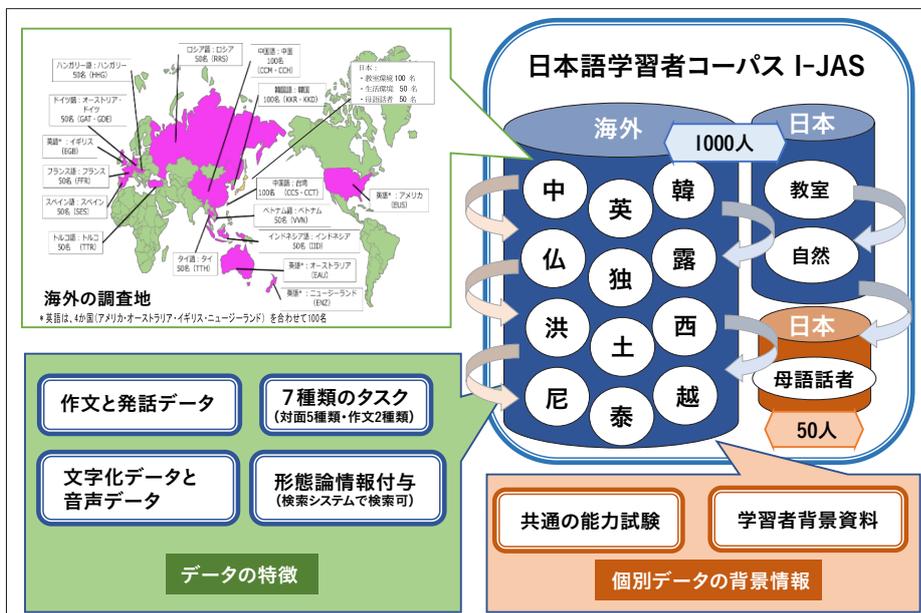
I-JASは、実際に参加した学習者総数1,229名、国内外の調査協力者79名、スタッフ40名、総勢1,348名の人々の力によって完成しました。

今後、I-JASが日本語の第二言語習得研究や日本語教育の分野で幅広く利用され、世界の日本語研究や日本語教育研究のさらなる発展に寄与することを願っています。

【引用文献】

迫田久美子・石川慎一郎・李在鎬編著(2020)『日本語学習者コーパスI-JAS入門』くろしお出版

(日本語教育研究領域・准教授/野山広
・客員教授/迫田久美子)



I-JASの概要

『BTSJ日本語自然会話コーパス』とは、『基本的な文字化の原則 (BTSJ: Basic Transcription System for Japanese)』というルールで文字化されたトランスクリプト (右下図) と音声を含む世界最大規模の日本語自然会話コーパスです。現在、377会話、754名分の会話が公開されており、完成すると、1000名を超えるインフォーマントの会話が含まれるものになります。

条件が統制された会話群

本コーパスには、収集の目的や、会話の条件が統制されている様々なジャンルの会話が収録されているため、グループごとの収集目的・条件を確認した上で、話者の属性 (年齢、性別等) や対話相手との関係など、話者の話し方に大きな影響を与える社会的要因を考慮に入れた分析をすることが可能です。

周辺言語情報を豊富に記載

また、BTSJという文字化には、「ええっと」などのフィラーや、間、沈黙、笑い、発話の重なり、割り込みなど、語用論的研究には必須であるにもかかわらず、他のコーパスには付与されていない情報が分析しやすい形で提供されていますので、言語的な特徴だけでなく、笑いや沈黙に反映された母語話者や学習者の心理に迫ることができます。このように、周辺言語情報もあわせて分析することによって、学習者の心理の動きとともに、そのコミュニケーションの実態や特徴が浮き彫りになってくるのです。

談話の流れがわかる

多くのコーパスでは、特定の単語の検索や、コロケーション (ある単語と単語のよく使われる組み合わせ) を調べることはできますが、その反面、長い「会話

の流れ」や、話者同士で交わされることばや笑い、沈黙などの「やりとりの様子」は、分析することができません。しかし、このBTSJコーパスでは、談話の流れを追うことができ、しかも、周辺言語情報が記されているので、文脈としての談話の流れを考慮したより深い語用論的分析を行うことができます。

学習者の誤用の語用論

例えば、文レベルでは、「そうですね」も「そうなんです」も問題ありませんが、「こういうことなんです」という発話に対して、「そうですね」は、自然ですが、「そうですね」では、不自然になります。このように、学習者の不自然な発話を研究するには、文法や語彙だけでなく、談話という流れ・文脈の中で判断しなければわからないことが多々あるのです。

コーディングの自動集計ツール

本コーパスは、一律にタグ付けをして提供するのではなく、各研究者が独自の観点からコーディングすることを推奨しています。また、その結果の基本的記述統計量を自動で計算してくれる『BTSJ文字化入力支援・自動集計・複数ファイル自動集計システムセット2019年改訂

版』と連動しています。このツールは、これまでは、不定期に開催される『BTSJ活用方法講習会』に参加した本人のみに無償で配布していましたが、今後は、オンライン講習会を受講することで受領できるよう準備を進めています。

本コーパスの入手方法

以下のサイトから申し込むことによって、どなたでも無償で利用できます。これまで、既に、2000人近くの方が申し込み、本コーパスを使った研究も、200本にのぼっており、論文集も刊行されました (宇佐美 2020ab)。これからの日本語教育には、このような貴重な「自然会話データ」をフルに活用することが望まれています。これからの日本語教育は、自然会話コーパスで変わるのです。

【引用文献・資料】

宇佐美まゆみ (編) (2020a) 『自然会話分析への語用論的アプローチ』 ひつじ書房

宇佐美まゆみ (編) (2020b) 『日本語の自然会話分析』 くろしお出版

『BTSJ日本語自然会話コーパス』 申込 https://ninjal-usamilab.info/lab/btsj_corpus/

(日本語教育研究領域・教授／宇佐美まゆみ)

データ読み	話者自動登録	話者登録	入力支援画面	行挿入	行削除	エラーチェック	マクロなし保存	集計	抽出	NCRE出力	
会話グループ名:22.中国人女性学習者(初級,上級)と日本人友人同性同士雑談		会話条件(会話の通し番号+会話グループ番号+会話の特徴を表す名前):325-22中国人女性学習者(上級)と日本人の友人		話者記号の凡例: CFA007: Chinese Female Advanced Learner 007 JF177: Japanese Female 177							
NCRE番号:-	会話時間:00:28:29	話者の数:2									
ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容							
1	1	*	CF A007	<うふふふふ><く>。							
2	2	*	JF177	<うふふふふふ><ひ>。							
3	3	*	CF A007	<笑いながら>何か授業以外でね、あんまり合わない<からさ><く>。							
4	4	*	JF177	<そだ><ひ>はね。							
5	5	*	CF A007	すごい変な感じ。							
6	6	*	JF177	なんか先週、何か失敗しちゃって<笑い>。							
7	7	*	CF A007	先週? あ、そう、そう、大丈夫?。							
8	8	*	JF177	あ、先週じゃない。							
9	9	*	CF A007	うん?。							
10	10	*	JF177	じゃない。							
11	11	*	CF A007	遅れたときだよね?。							
12	12	*	JF177	じゃない。							
13	13	*	CF A007	先週?。							
14	14	*	JF177	うん、私、あのー、昨日は合宿に行ったの。							
15	15	*	CF A007	えー、あ、そなの?。							
16	16	*	CF A007	え、何の?。							

『BTSJコーパス』会話データ例

The screenshot shows the 'Basic Verb Handbook' interface for the verb '上がる (あがる)'. On the left, there is a tree diagram showing the various forms of the verb (e.g., 上がる, 上がった, 上がる, 上がる, etc.). In the center, there is a visual illustration titled '上がるのコアイメージ' (Core Image of Going Up), showing a green block on a platform that is being moved to a higher level. Below this, there are three numbered sections: 1. 上に移動1 (Moving up 1), 2. 上に移動2 (Moving up 2), and 3. 水中から移動 (Moving from water). The right sidebar contains a list of related phrases and their meanings, such as 'もしも受賞のあかつきには舞台上に上がってオスカーを受け取る。' (If I win an Oscar, I will go up on stage to receive it.) and 'タキシード姿の司会者が、再びステージに上がっていた。' (The tuxedo-clad emcee went back up on stage.)

『基本動詞ハンドブック』の「上がる」

英語の「run (走る)」を辞書で調べてみると、「人間・動物が走る」という意味だけではなく、「動く」、「逃げる」、「はう」、「広まる」、「経過する」、「掲載される」、「運行する」、「経営する」、「選挙で立候補する」などといった様々な意味で使われていることに気づきます。英語のrunのように、どの言語にも一つの単語が二つ以上の意味を持つ「多義語」が存在し、その多くは日常のコミュニケーションの中で頻繁に使われるいわゆる「基本語」です。実は、日本語の「走る」も「犬が走る」「電車が走る」「稲妻が走る」「寒気が走る」「非行に走る」のように、複数の意味で使われる「多義語」です。日本語の母語話者ならばこれらの複数の意味を難なく使い分けられるでしょうが、外国語として日本語を学ぶ学習者の場合、それは容易ではありません。

多義語の中でも、日常生活で繰り返される基本的な出来事を表す「行く」、

「来る」、「のぼる」、「くだる」、「上がる」、「下がる」、「起きる」、「聞く」、「走る」、「ぶつかる」、「出る」、「出す」のような「基本動詞」は、取り分け学習に困難をもたらします。なぜならば、基本動詞の場合は、複数の意味のみならず、その文法的な振る舞いや適切な文脈なども併せて学ぶ必要があるからです。

日本語学習者は、たびたび知らない意味に遭遇し、辞書を引きます。母語話者向けの辞書は多義語の複数の意味(語義)を列挙するのみで、語義間の関連性は必ずしも述べません。母語話者には必要ないからかもしれませんが、学習者の場合、関連性の見えない複数の語義をひたすら覚えるのは大きな負担になります。日本語の多義語を理解し、習得するためには、複数の語義間の関連性を解説する学習者用の辞書が必要です。「基本動詞ハンドブック」は日本語の多義的な基本動詞の教育・学習の課題を解決するために開発されたオン

ライン版辞書です。この辞書では基本動詞の中心的な意味、および多義的な意味の広がりや図解なども用いて分かりやすく解説し、また、大規模日本語コーパスを積極的に活用して共起しやすい名詞や副詞を提供しています。さらに、文法的な振る舞いなどを詳細に記述し、豊富な音声付の用例、アニメといった視聴覚コンテンツなど、他のレファレンスには見られない生きた情報も提供しています。

だれでも、いつでも、どこでも無償で利用することが可能ですので、是非アクセスしてみてください。

<https://verbhandbook.ninjal.ac.jp/>

【引用文献・資料】
ブラシャント・パルデシ他(編)(2019)『多義動詞分析の新展開と日本語教育への応用』開拓社

(理論・対照研究領域・教授/
ブラシャント・パルデシ)

住みはどこ？

推しは誰？

～自立する言葉たち～

尾谷昌則 ODANI Masanori

生まれは柴又、住みも柴又？

学生A：「住み、どこ？」

学生B：「横浜。」

こんな会話を聞いて驚いたのはもう数年前だ。「田舎住み」「都会住み」「実家住み」という複合名詞をネット上で目にしたことはあったが、「住み」が単独使用されているのは新鮮だった。映画の中で、渥美清さんがもし「生まれは柴又、住みも柴又」なんて自己紹介をしていたら、さぞかし新鮮なことだろう。

「○○住み」のような表現は、「田舎暮らし」などの「暮らし」が「住み」に入れ替わったものと勝手に推測していた。学生に聞くと、「どこ住み？」という疑問文もよく使うということなので、「田舎暮らし」→「田舎住み」→「どこ住み？」→「住みはどこ？」→「住みは柴又です」のような発生ルートを辿ったのだろうか。「○○住み」と、そこから自立した「住み」のルーツは一体どこにあるのだろうか。

新しい表現となれば、Twitterの出番だ。さっそく「住み」で検索すると、2007年に「長町住み？」という書き込みが見つかった。しかし、Twitterのサービス開始は2006年なので、もっと古い用例があるかもしれない。そこで、ネット掲示板の「2ちゃんねる」（現



「5ちゃんねる」)の過去ログを調べてみると、「実家住み無職」と「アメリカ住み」が2000年に、「どこ住み？」(2件)が2001年に見つかった。しかし、「2ちゃんねる」だって1999年からのログしかないのだから、もっと古い用例があるかもしれない。

平安文学にも「○○住み」が！

そこで、念のため、BCCWJ（現代日本語書き言葉均衡コーパス）を調べてみたところ、面白い用例が2つヒットした。1つは、「住み」の単独用法で、2008年の「Yahoo! ブログ」にあった以下の用例だ。

名前：サン

住み：神奈川県

年齢：十三

職業：中学生

ネット上では、匿名のままスペック¹を紹介する場面

1 従来は機器の性能や仕様のことを指すが、ネットスラングとしては人物の特性を指す。特に、恋愛相談などの掲示板で、最初に相談者の自己紹介をする際に、「スペックは、学歴：国立大卒、年齢：32、職業：公務員、年収：600」のように使用される。

が多い。自己紹介では「出身は〇〇で、趣味は〇〇で、、、」という具合に、紹介項目を名詞で言うため、「住み」も自立したのかもしれない。

もう1つは、「部屋住み」が数多くヒットしたことだ。自分一人の内省では思いつかなかった。自らのボキャ貧を恥じると同時に、コーパスのありがたみを感じる。「部屋住み」は、家督相続前の嫡男もしくは次男以下の者を指すが、ヤクザ業界では住み込みで雑用をこなす新人を指す。念のため、『日本国語大辞典』（第二版）で調べてみると、どうやら『日葡辞書』にも記載があるらしい。おいおい、意外に古いじゃないか。

となれば、今度はCHJ（日本語歴史コーパス）の出番だ。検索してみたら、最も古いものは『竹取物語』にある「独り住み」であった。他にも、『蜻蛉日記』には「やもめ住み」「山住み」「里住み」があり、『源氏物語』では「内裏住み」も加わっている。やや時代は下り、『とはずがたり』には「奈良住み」まであった。さ

すがに、固有の地名と結びついたものはこの一例のみであったが、まさか「〇〇住み」という複合名詞の起源が平安文学にまで遡るとは予想外であった。

続々と自立する連用形名詞たち

「笑い」「叫び」「戦い」「余り」のように、動詞の連用形は名詞になる。「住み」もその一員に加わったわけであるが、他にも新しく加わった連用形名詞はある。アイドルグループなどで自分が応援しているメンバーのことを「推しメン」と言うが、最近では「推しは誰？」のように、「推し」が自立した。「今日は飲みがある」「飲みが足りない」では、「飲み」が単独で使用されている。SNSのインスタグラムでは、皆がこぞって「インスタ映え」を気にしたが、すぐに「映え（を気にする）」のように名詞化し、さらには「映える写真」のように動詞化まで果たした。

教育業界では、近年「気づき」という連用形名詞がキーワードになっているようだ。教師が教えるのではなく児童が主体的に学ぶことを重視する文部省（現在の文部科学省）が、1990年頃から資料の中で使用し始めたらしい。ただし、これは心理学用語“awareness”の訳語であり、「〇〇気づき」のような複合名詞から自立したわけではないようだ。



おだに まさのり ●法政大学 文学部 教授。
新しい言葉の誕生と、文法規則の拡張が大好き
の言語学者。趣味はギターをひくことと、
学生たちから若者言葉を教えてもらうこと。



研究者紹介 016

窪 蘭 晴 夫

理論・対照研究領域 教授

日本語の研究と 一般言語学との橋渡しに挑む

くぼぞの はるお ● 1957年鹿児島県生まれ。大阪外国語大学と名古屋大学大学院で英語・英語学を学び、英国エジンバラ大学大学院で言語学・音声学を学ぶ(1988年、PhD)。南山大学外国語学部、大阪外国語大学日本語学科、神戸大学文学部で教鞭を執ったのち、2010年4月より現職。

— 研究の道に進んだきっかけは？

大学時代は受験に失敗した反動でクラブ活動とアルバイトに明け暮れる毎日でした。卒業後は鹿児島の田舎に帰って中学校の英語教師になるのだろうと漠然と思っていて、実際4年生になって母校の中学校で教育実習もしましたが、教員試験を受ける段階になって、何かやり残しているのではないかと思うようになりました。

大学の授業は7割くらいしか出席しなかった一方で、言語学の授業で習ったグリムの法則や英語学概論で学んだ大母音推移は面白く、また寺村秀夫先生のユニークな言語学の授業にも魅了されました。寺村先生が日本語文法の大家だということは後になって知りましたが、「留学生が日本語についてこんな質問をしてきた。僕には答えが分からないけど君たちは分かるか」という問いかけを200人くらいの学部生を相手に毎週のようにされていました。寺村先生の授業を受けて、分からないことに気づく楽しさと、「勉強」と「研究」の違いを教わった気がします。このようなわけで、田舎に帰るのはもう少しやりたいことをしてからでも遅くはないと思い、4年生の夏頃に大学院への進学を決意しました。

— これまでどのような研究を？

私の研究は自分の人生と逆の方向に進んでいます。私生活では鹿児島弁(L1) → 標準語(L2) → 英語(L3) というように進みましたが、研究の方は英語 → 日本語(標準語) → 鹿児島方言という順に進んできています。

英語から日本語への転換となったのは20代後半のイギリス留学でした。英語

音韻史を専攻するつもりでその分野の大家がいらしたエジンバラ大学に留学したのですが、一般言語学や音声学の授業を受ける中で、母語である日本語のことが分かっていないということを感じたのです。日本語のアクセントやリズムのことを聞かれてもちゃんと答えることができない自分が恥ずかしくなりました。そこから日本語研究に改宗しましたが、母語の研究は自分の直感に頼ることができて、足が地に着いた感じがしたものです。

日本に帰ってきてからもしばらくは標準語の研究が中心でしたが、アクセントなど直感が働かない(たとえば「橋」と「端」と「箸」の違いが分からない)自分にもどかしさを感じていました。考えてみれば私にとって標準語はL2で、18歳になってはじめて話した言語です。30代半ば頃から、里心がつくかのように自然に母語である鹿児島方言の研究を始め、そして高校時代の同級生たちが話していた甑島方言の研究へと広がりました。

鹿児島方言の複合アクセント規則(いわゆる複合法則)を学んだときはその規則性に驚きました。自分が何十年間も話してきたことばの中に、グリムの法則のような整然とした法則があったのかと感激したものです。

調査研究をしていると次から次に新しい疑問が出てきます。そのときに言語話者としての直感が働くのはとても愉快で、自分の直感をもとに仮説を立てて、それを方言調査で検証するというのをかれこれ四半世紀続けています。

— 今、関心を抱いているのは？

この20年くらいは、モーラ、音節、ア

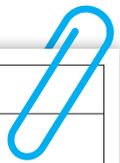
クセント、イントネーションをキーワードとして研究をしてきました。言い間違いやオノマトペ、赤ちゃん言葉、語形成などの研究はこの延長線上にあります。私が一番知りたいのは、自分が母語である日本語や鹿児島方言をどのように操っているのか、その仕組みです。その意味で私の言語研究は自分を知るという研究でもあります。

これと関連して、日本語や鹿児島方言が人間の言語の中でどのような言語なのかという問いにも関心があります。少し大げさに言うと、日本語の研究と一般言語学との橋渡しです。一般言語学から見ると日本語の研究にどのような新しい知見が得られるのか、それとは逆に日本語の研究が世界の言語研究にどのように貢献できるのか、このことを念頭において研究をしています。

— 今後の研究についてお願いします

今の一番の課題は日本語の方言研究と一般言語学の関係です。方言のプロソディー研究はとてもレベルが高い一方で、日本語の中で研究が完結している感があり、一般言語学的な視点が一番足りないのではないかと思います。

研究者としてのキャリアを終える前に、一般言語学の視点から鹿児島方言と甑島方言のプロソディー研究をそれぞれ本にまとめる、それが目下の目標です。それともう少し日本の研究者の優れた研究を世界に伝えたい。それがもう一つの目標です。



研究者紹介 017

麻生 玲子

言語変異研究領域 特任助教

消滅危機言語の資料をどういう方法ならたくさん集められるか

あそう れいこ ●1981年神奈川県出身。OL時代、ふと立ち寄った書店で出会った本をきっかけに大学院に進学し、2020年博士号取得。2017年から現職。2017年日本言語学会論文賞、2019年ドゥナンスカンニ大会（与那国島）作詞の部で最優秀賞を受賞。

— 研究者になったきっかけは？

2つきっかけがあります。まずは学部生の時に風間伸次郎先生の授業で「カンジャマンジャ語」を分析したことです。あ、カンジャマンジャ語なんて言語はこの世に実在しません（笑）。風間先生が課題用に用意した架空の言語です。それまで外国語というのは先生や文法書から学ぶものだと思っていました。ですから、全く知らない言語を自らの力で一から分析して文法を明らかにする学問があるなんて思いもしませんでした。でも、考えてみれば誰かが文法を明らかにしてまとめなければ、文法書なんてこの世に存在しないですよ。カンジャマンジャ語資料にある形式と意味を見比べながら「この形式がこうなると、この意味になるから…」と時間を忘れて分析したのを今でも覚えています。要するにパズルみたいなのがとても面白かったんです。課題という課題でこんな夢中になって取り組んだのは、後にも先にもこれくらいだったと思います（笑）。

2つ目はデイヴィッド・クリスタルの『消滅する言語』（中公新書 2004年）という本と出会ったことです。学部を卒業した後は会社で働いており、昼休みに立ち寄った本屋さんで偶然見つけました。「このままでは、記録が残らないまま多くの言語が地球上から消滅する」と書いてありました。当時、仕事内容や会社に不満があったわけではないのですが、私じゃなくてもできる仕事だったので、物足りなさがありました。なので、風間先生の授業を思い出して「自分にしかできないことかもしれない。私も消滅の危機にある言語の文法書を書かなくちゃ！」と勝手に使命感を感じました。巻末の「関

係団体リスト」に日本の大学院が1つだけ書いてあったので、学費と調査費を貯めて入学しました。今思うと、単純すぎて怖いですね。

— これまでどのような研究を？

沖縄県にある波照間島の方言の研究をしています。進学先では、オーストラリアの消滅危機言語を研究していた角田太作先生の研究室に入りました。どの言語の文法書を書くか相談したところ「アイヌ・琉球・モンゴル」のどれかにしなさいと言われました。ちなみにモンゴル語は学部時代の専攻言語です。ショックでした。南米のジャングルとか、アフリカの砂漠とか、極寒のシベリアとか、そういう所に行くと思っていましたから（笑）。それに選択肢に日本があったことに驚きました。灯台下暗しです。結局、調査で使用する媒介言語の問題や、治安、旅費、話者の数を考慮し琉球に決め、思い切って琉球列島の最南端に向かいました。期待は良い意味で裏切られました。島ではこれまで聞いたこともなかった音を耳にし、以来、惚れ込んで波照間方言の研究をしています。カンジャマンジャ語は課題用の言語だったので、パズルのようにきれいに分析できたのですが、実際の言語の分析は中々そもいかないので、とても苦労しています。

— 今、関心を抱いているのは？

消滅危機言語の資料をどういう方法ならたくさん集められるか、ということに関心があります。今年ようやく波照間方言の文法書を博士論文として提出できました。途中、出産・育児で休学していた期間もありましたが、修士課程から数えると13年もかかってしまいました。一人の研究者が一生のうちに書ける文

法書の数には限界があります。でもその間、時間と共に言語は消滅していく一方です。だったら資料だけでも集められないだろうか、と考えています。何しろ状況は切迫していて、日本の消滅危機言語はあと5~10年の間で調査が難しくなりそうです。

— 今後の研究についてお願いします

2つ大きな柱があります。1つは、地元コミュニティと連携して、持続可能な資料収集方法を開発することです。今年はコロナウイルスの流行によって、研究者が話者の方に直接会って調査することはほぼ不可能となってしまいました。来年以降の見通しも立たない状況では、研究者が直接行かずとも地元コミュニティで資料収集・蓄積できる環境やモチベーション、フォロー体制が本格的に必要となるでしょう。今は話者の方々に、試験的に方言の録音をしてもらっています。録音機の使い方の動画や調査票・イラストなどを用意して、負担なく継続できる方法を模索している最中です。

もう1つは、波照間方言を含む八重山地域の言語が、どのように分かれて今の状態になっているかを研究するものです。興味を持っている同僚に助けをもらいながらチームで取り組んでいます。



「なりきり! 方言研究者PJ」(<https://sites.google.com/view/narikiri-linguist-pj/>)



「いま何もしなければ」なくなってしまう

琉球諸語の絵本出版

プロジェクト

子供たちが大人になった時にも、島のことばが聞こえる世界を残すために。

クラウドファンディングに挑戦し、
304人の方から合計4,185,000円のご支援をいただきました。

消滅危機言語と聞いても、「いま何もしなければなくなってしまう…でも何をしたらいいかわからない」と思う人が多いと思います。

「言語復興の港」プロジェクトは、言語コミュニティの人たちと一緒に、流暢な母語話者も、大人も子どもも楽しみながら地域言語の記録保存と継承保存ができるプロジェクトを行っています。例えば地域に伝わる昔話は、**言語資料として記録するほかに、誰もが楽しめる絵本として制作し**、教育機関や地域内の読み聞かせ会などで利用してきました。

今回のクラウドファンディングでは、主に言語コミュニティの外の人たちに向けて、絵本をもっと多くの人に届けるための支援を呼びかけました。ほんとうにたくさんの方が、**言語の多様性保持は遠い南の島の問題ではなく「じぶんごと」として**とらえてくださり、実施者一同とてもうれしく思っています。



ましゅ いっしゅーぬ くれー 沖永良部島
(塩一升の運)
横山晶子・山本史・松村雪枝・田中美保子
A4判 ISBN978-4-8234-1053-6



カンナマルクールクぬ かむ 多良間島
(カンナマルクールクの神)
下地賀代子・山本史・野原正子
A4判 ISBN978-4-8234-1052-9



ふしぬ いんのぬ はなし 竹富島
(星砂の話)
中川奈津子・山本史・内盛スミ
A4判 ISBN978-4-8234-1051-2



ディラブディ 与那国島
山田真寛・山本史・與那覇悦子
A4版 ISBN978-4-8234-1050-5

*画像はすべて制作中のものです。

絵本はすべて字幕付き朗読動画、詳しいことばの解説、全文の逐語訳、朗読音声付きで、ひつじ書房より出版されます。詳しくは READYFOR (<https://readyfor.jp/projects/minato>) の新着情報または、「言語復興の港」で検索してください！

Book Review

著書紹介

データに基づく 日本語のモダリティ研究

田窪行則・野田尚史 編

くろしお出版
2020年3月



1990年代の初めに活発化したモダリティの研究は、現在に至るまで、日本語文法研究者たちにとって主要な研究トピックの一つであり続けている。内省に基づく研究、コーパスに基づく研究、異なる言語間での対照研究など、研究の方法論は様々に分化してきたが、それらを広く見渡すような視点は存在しなかった。

今回、2018年12月に開催されたNINJALシンポジウム「データに基づく日本語研究」での発表が、論文集としてまとまった。「多様な言語データに基づいて多角的・総合的な観点から日本語のモダリティ研究を開拓しようとする論文集」とのことである。第1部では、日常会話コーパス、書き言葉コー

パス、方言コーパス、通時コーパス、学習者コーパスといった、国立国語研究所で開発が続けられている一連のコーパス群を用いたモダリティの実証的な分析が示されている。第2部では、音声、記述文法、対照研究、脳科学といった観点から、モダリティの現象に迫っている。

充実した執筆陣による多彩な論考を収めた本書は、日本語のモダリティ研究の到達点の一つとして捉えることができるだろう。モダリティを多角的・総合的に見渡すための土壌（研究基盤）が整ってきたことを示す実践例として、必読の書である。

▶丸山岳彦（専修大学・国立国語研究所）

近現代日本語の「誤用」と 言語規範意識の研究

新野直哉

ひつじ書房
2020年2月



本書は、『現代日本語における進行中の変化の研究』（ひつじ書房2011年）に続く、著者による2冊目の著書である。否定を伴わない“全然”、“気がおけない”、“名前負け”など「誤用」が指摘される語句の通時的考察、これまで未紹介の言語研究・言語規範意識研究に資する昭和期資料の紹介と具体的な言語現象および課題の提示が行われている。

著者は「誤用」を、「誤りである」という意識が社会一般に相当程度定着しているような使い方」と定義し、「誤用」が客観的な存在ではなく使用者の意識によって決定づけられるものであることを述べる。そこから、人々の言語規範意識を示す言説を確

認・分析することが必要であるとする。

考察の姿勢は徹底した実証主義であり、用例や先行研究の博搜と丁寧な資料の扱いには目を見張るものがある。コーパス・データベースの活用は当然であるが、「どうやって見つけたのか」と驚く例が多数示されている。できるだけ原本に当たり、各用例を丁寧に分析して先行研究の誤りを正すなど、その真摯な研究姿勢が見て取れる。また昭和期新資料の紹介と課題提示も価値が高く、その探索と研究への活用は、今後大いに進展すべきものと期待される。

▶橋本行洋（花園大学）

語彙の原理

先人たちが切り開いた言葉の沃野
石井正彦 編

朝倉書店
2019年10月



本書はシリーズの第1巻だが、1冊で「講座」になっているような印象を受ける。実際、第1章などは、講座スタイルの記述の典型ともいえるもので、大変わかりやすいと感じる。本書が「講座」のような性格のものだと考えれば、語彙の分野の入門書を兼ねるものでもあり、初学者の学びの助けになるものを目指したものととらえることができよう。しかし、たとえば第2章「語彙の分類」などは、本書の想定読者である初学者にとっては、若干敷居が高いのではなからうか。

第3章「語彙の体系」では「身につける物」と「着る、はく、かぶる」などの動詞の共起関係（コロケーション）を論じてい

る。しかし、「帽子、ヘルメット」などは「かぶる」と共起するというように名詞と動詞の共起で説明するのでは、本質を見失う。パンツははくものだが、かぶることだって可能である。つまり、この現象は名詞と動詞の共起ではなく、身体のどちらの方向から身につけるかで動詞を使い分けているのであって、名詞と動詞の共起に見えるのは、現実的にそれぞれのものがどのように身につけられるかが固定的だからに過ぎない。

一部に問題があるにせよ、全体としてはわかりやすい記述になっており、本書のねらいは十分に達成されていると思われる。

▶荻野綱男（日本大学）

今年は、新型コロナウイルス感染症の拡大のため、日常生活の不安や不自由さだけでなく、社会、経済、文化、教育など、多方面に影響が出ています。多くのお祭りやイベント

が中止・延期になりましたが、国語研究所でも、毎年恒例の「ニホンゴ探検」や「オープンハウス」の開催形態が変更になり、関心を持ってくださるみなさんに国語研究所に来ていただくことができなくなってしまいました（webでは公開していますので、どうぞご覧ください。「ニホンゴ探検2020」<https://www.ninjal.ac.jp/event/young/tanken/ninjal2020summer/>、「国立国語研究所オープンハウス2020」<https://www2.ninjal.ac.jp/openhouse2020/>）。

また、研究の面でも、フィールドワークのために現地を訪れたり、話者の方々に直接お目にかかってことばを教えてもらったりすることが難しい状況になっています。これは研究者だけではなく、学生の方々にとっても同じで、卒業論文などが思うように進まなくて困っている人も少なくないと聞いています。

このようにたいへんな社会状況ではありますが、今後、明るい未来に向かうことを祈って、今号の表紙は、日の出の写真にしてみました。上の写真は、国語研究所から見える朝日の写真です。下の写真は、同じ場所からの昼間の風景です。国語研究所の最寄駅の多摩都市モノレールの高松駅と、4両編成のモノレールが見えています。

今回の特集では、「統語コーパス」プロジェクトと「学習者のコミュニケーション」プロジェクト、ふたつの基幹プロジェクトを紹介しました。これらのプロジェクトで扱われている「統語コーパス」「学習者コーパス」など、蓄積されてきた言語資源をうまく研究に活用して、現在の制限のある状況を乗り切るのもひとつの方法かもしれません。（井上文子）

※次号（vol.9）は2021年3月頃発行予定です。

国語研 ことばの波止場 vol.8

2020年9月30日発行

編集 国立国語研究所研究情報誌編集委員会
 [柏野和佳子(委員長) 井上文子 小木曾智信]
 [福永由佳 横山詔一 松本曜]
 発行 大学共同利用機関法人
 人間文化研究機構
 国立国語研究所
 〒190-8561
 東京都立川市緑町10-2
 電話0570-08-8595(ナビダイヤル)
 協力 くろしお出版
 デザイン 黒岩二三[Fomalhaut]